

五歳児の記録⑫



磯
部
景
子

二 学 期

十月九日 金曜日 雨

ぬいぐるみの動物とあそぶ
オリンピック用の旗ができる
帰る時のあつまりの時に先生が「みつばちマーヤの冒険」をよむ

保育室の壁に、運動会の絵がはってある。

保育室の入口のところにダンボールの大きい箱がおいてある。その箱の中にはマジックの空箱がたくさん入っている。

テレビの前の机の上に緑色のかごがふたつおいてある。かごの中には毛のふさふさしたぬいぐるみの犬が二匹ずつ入れている。かごのとなりに洋服をきたキュービーがおいてある。

遊具入れのかごの中に新しいなわとびのなわが入れている。

保育室の中ほどの机の上に新聞のオリンピック版がおいてある。

八時五十分

◎が犬の首輪についている鈴をならしている。

①が犬を入れてあるかごを持って歩いている。

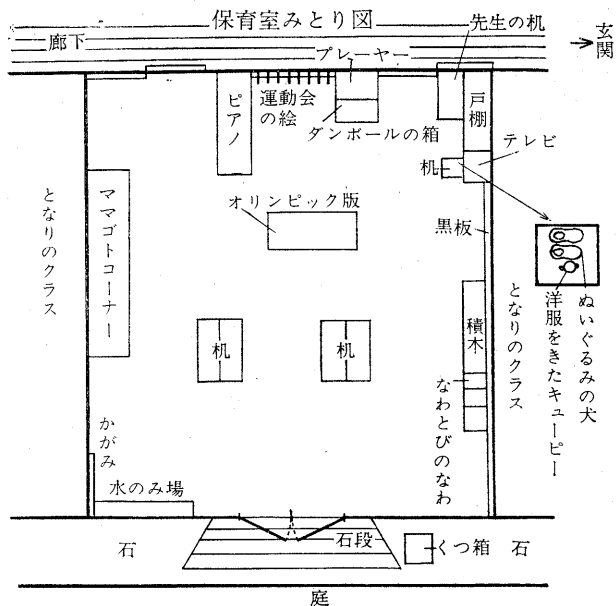
男児が四、五名、机の上においてある新聞のオリンピック版の国旗をみながら、「ウルグアイ」「チリ」などの国の名前をいっている。

九時

自由絵 女児六名

箱つみ木 男児三名（E、N、C）

⑧、⑨、①が三人で手をつないで保育室に入ってくる。
先生は三人をみて、
「三人いっしょで、よかったわね」という。



①と⑧がぬいぐるみの犬をだいている。
首輪の鈴をならす。

①、⑨、①の三人が保育室で鬼ごっこをはじめめる。

九時十五分

男児がオリンピックのメダルの獲得表を囲んではなしをしている。

先生も加わってはなししている。

先生はままごとコーナーの壁にオリンピック版をはる。

九時二十分

ままごとコーナーであそぶ

①、⑧、⑨、⑤

本をよむ

①、⑧、⑨、⑤

保育ブロックであそぶ

N、C、E、O、M、D、B

十時五十分

廊下

鬼ごっこ

男児五名（R、H、D、他）

鬼のみないうちに動くあそび

だるまさんごっこ（ぬいぐるみの犬をだいている）

女児六名（①、②、③、④、⑤、⑥）

十一時

保育室

くみ板で車をつくっている

男児四名 女児一名

（E、N、T、O、⑦）

自由絵

女児一名（⑧）

先生を囲んで旗をつくる

男児三名、女児二名

（Y、I、M、⑨、⑩）

先生はひごを十字にくんで、子どもたちがかいた旗を糸につないで糸をひごに結んでスタンドピアノの上に固定する。

廊下

ラケットをなわとびのなわでゆわえ、その上にぬいぐるみの動物をのせて、つなをひっぱってリレーをする。だんだん人数が多くな

り女児が全員参加する。

保育室の前から玄関まで走って行って折りかえしてくる。

一時半

おかえりのあつまりのときに、先生は「みつばちマーヤの冒険」をよむ。

ぬいぐるみの犬となわとびのなわと、新聞のオリンピック版を中心に展開した活動を中心に記録をみると次のようになる。

ぬいぐるみの犬を中心にして展開した活動

保育室

朝、女児が時々ぬいぐるみの犬をだいたり、犬の首輪についている鈴をならしたり、犬をみどりのかごに入れたまま、かごを持ち歩いたりしている。

ままごとコーナーに犬をつれていく。だいたいかごに入れたりしてままごとあそびをする。

廊下

十一時頃 犬をだいて廊下に出る。犬をだいたまま「だるまさん」をする。

犬の首になわとびのなわをゆわえて犬をつれて歩く。子どもが歩きはじめると、犬はすぐにたおれてしまう。たおれるたびにしゃがんで犬をおこす。

先生が子どもたちのしていることをみている。先生はなわを犬の足にゆわえてみる。先生がためしにひっぱってみる。犬はたおれない。

先生「これなら、いいわ」という。子どもたちはつなを犬の足にゆわえて、歩きはじめる。先生は子どもたちがするのをみて保育室にいく。

子どもたちは犬をひいてしばらく廊下を歩いている。

やがて犬をひっぱって走りはじめる。

犬をひっぱって走るリレーがはじまる。

次にバトミントンのラケットを保育室から持ってきて、ラケットになわをゆわえて、ラケットの上に犬をのせて走りはじめる。

他のあそびをしていた子どもたちが廊下に来てみている。先生も保育室から廊下に出てくる。

「入れて」といって子どもたちが入ってくる。人数がだんだん多

くなる。

子どもたちは保育室にいつて以前から保育室においてあったぬいぐるみの、うさぎ、ぞう、りすなどを持ってきておおぜいでリレーをする。

女兒全員が参加する。

新聞のオリンピック版を中心にして展開した活動

保育室

先生は子どもの机に向かって新聞のオリンピック版のふちをセロテープではって丈夫にする。

男児が四、五名、新聞のオリンピック版を囲んで、オリンピック版の国旗をみながら、その国の名前をいっている。

先生が子どもたちに加わる。オリンピックのメダルの獲得表を囲んでみんなではなしをしている。

先生は新聞のオリンピック版のメダル獲得表をままごとコーナーの壁にはる。

十一時頃からオリンピック用の旗づくりがはじまる。大きさはB5判である。(運動会の時の万国旗の二倍の大きさ)

先生はひごを十字に組む。先生は子どもたちが、かいた旗の両端に糸をつけて旗をたてにつなぎ、長くつながった旗をひごにむすびつける。それをスタンドピアノに固定する。

十月十日 土曜日 晴

非常によいお天気になる。

先生は子どもたちをさそって庭に出る。

九時四十分から帰るときまで先生も子どもたちもほとんどずっと庭であそぶ。

庭のあそびは前半は砂場で「ひょっこりひょうたん島」づくりが活発で、後半は二人三脚がさかんになる。

九時二十分

保育室

女児三名が絵をかいている。

遊戯室

男児八、九名、女児二、三名がかたまっている。

女児ひとり保育室からバトミントンのラケットをたくさん持ってくる。

男児たちはそれぞれ、女児からラケットをうけとって、

「こうげき」などと口々にいいながら遊戯室内をかけまわる。

砂場

男児五、六名と女児七、八名が別々のグループになって熱心にあそんでいる。

男児は「ひょっこりひょうたん島」をつくっている。島のまわりに堀をつくって水を流しこんでいる。

九時三十分

先生はタオルを点検したり、室内の整備をして庭に出る。

先生は砂場の子どもの腕をまくったりして子どもたちが活動しやすいようにする。

九時四十分

先生は遊戯室に行く。

遊戯室にいた子どもたちは先生といっしょに保育室に帰ってくる。

男児はそのまま庭に出て、砂場のあそびに加わったり、ぶらんこにのりにいたりする。

女児は石段のところに立って他の子どもたちがあそんでいるのを見ています。

先生「さあ、なわとびでもしましょうか」といいながら、先生はなわとびのなわやリレーのバトンなどの遊具の入ったかごを保育室から運び出す。

⑤は新しいなわとびのなわをみて、

⑤「外でやってもいいの？」と先生にたずねる。

先生「ええ、いいわよ」という。

女児たちもなわとびのなわを持ったたり、まりを持って庭に出る。

先生は砂場に行く。

砂場の子どもたちのエプロンが前へたれさがらないように、うしろを洗濯ばさみでとめる。

先生は砂場にいる子どもたちをみながら、

先生「今日は女の方たちもいっしょでお手伝いができていいわね」という。

砂場の子どもたちは「ひょっこり、ひょうたん島」のテーマソングをうたいながら、島をつくり続ける。

先生は庭をひとまわりみわたす。

先生はつり輪のところにいって、つり輪に両足をかけて、のろうとしている女児のためにつり輪の長さを調節する。

砂場にもどり、砂場のすみで型をぬいてお菓子屋さんのあそびをしている⑩のところで、ごちそうを食べながら、⑩とはなしている。

Kが保育室の前でなわとびをしている。

K「せんせい、いっぱいできるよ。みててごらん」

先生「そうお」といってKがなわとびをするのを見る。

先生「あら、Kちゃん。そのなわとび、やりにくくない？こつちの方が長いわよ」と長いなわを持つてくる。

K「うん、大丈夫。ぼく、これであっているんだもん」といってとんでみせる。

先生「あら、ほんとうねえ。じょうずねえ」といって、Kがとぶのを見ています。

⑩が先生のところにくる。

⑩「せんせい、ごちそうできたの。食べにきて」

先生「はい、はい、できましたか？」と砂場に行く。

先生「さっき、Hちゃんたちはどこにいったのかしら」とひとりごとをいって庭をみわたす。それからつり輪のところにいく。

先生はつり輪のところで、なわとびのなわを持っている子どもたちとはなしている。

先生はその女児のひとりとなわとびのなわで足をゆわえて二人三脚をして庭を走る。

女児たちが、二、三人、うしろから走ってついていく。

先生はなわとびのなわで、ついてきた女児たちの足をふたりずつゆわき、二人三脚ができるようにする。

砂場でお菓子屋さんのあそびをしていた女兒たちも、なわを持ち出して、二人三脚をはじめた。

先生「いち、に、さん、し」といいながら、先生も、子どもも庭を歩きまわったりする。

㊤が先生にすがりついてくる。

先生「じゃ、㊤ちゃんと先生もしましょうか？できるかしら」といって、なわとびのなわを保育室から出してくる。

㊦「せんせい、ほどこちゃった」

先生「ああ、ほどこちゃったの？じゃ、㊤ちゃん、ちょっと、これ持っていて」といって持っていたなわを㊤にわたして、㊦たちのなわを結びなおす。

先生はそれから、㊤と足を結びあわせる。

㊦「あつじゃあ、きょうそうしよう、ね」という。

先生「ちょっと、まってください。少し、れんしゅうしましょう」といって

先生「いち、に、いち、に」とかけ声をかけながら、㊤と歩き出す。

そうしているうちに㊤の相手がみつかり、先生は㊤たちの足を結ぶ。

先生は新たに加わった㊤と足を結んで歩き出す。

㊦たちが加わる。

㊦「せんせい、わたしたちもする。むすんで」といってなわとび

のなわを持つてくる。

先生「ああ、これね、たすきがいんだわ。これだとやってるうちに、足がいたくなるわ。たすき、まだおいてあるでしょう？」

㊦たちは保育室にたすきをとりに行く。

㊤がぼつんとみている。先生は㊤が来ているのに気づく。

先生「あ、じゃあ、㊤ちゃん、㊤ちゃんとやったらいいわ」

㊦「うん、㊤ちゃん、やろう」

先生は、なわとびのなわで二人三脚をしている子どもたちに、たすきの方がよいことを教える。

先生は保育室に行く。

女兒たちは次々と保育室にたすきをとりに行く。

女兒たちはたすきで足をゆわえている。そのうち、みんないっしょにつなごうと話がまとまる。

㊦「こんなに長くして、せんせい、わらわせようね」

㊦「うん」

女兒たちはおもしろそうにわらって九人横に並んで足をむすぶ。

みんなで歩こうとするが全然歩調がそろわない。

先生が保育室から出てくる。

女兒がずらりと横に並んでいるのをみて、

先生「おや、おや、まあ、それはむずかしいでしょう」と笑いながら、みんなのところにいて、みんなの前にしゃがむ。

先生「いちの時、これとこれとこの足を出して、その次にこれとこれと……の足を出すのよ」と手で子どもたちの足をさわりながら教える。しかし、子どもたちはなかなかできない。

Hが先生のところに来る。

H「せんせい、なわとびするの、どこにある？」

「そこよ、ほら、そのかごの中」といつてかごをさす。

先生のところに、子どもたちがぎんなんをとりに行くといつて来る。

先生はその子どもたちにわり箸と容器をわたす。

九人十脚の女兒たちはうまくいかず、二人や三人のグループに分かれる。

蚊にさされた子どもが先生のところに来る。

④「せんせい、さされちゃった」

先生「あら、まあ、あなた、どこで」

④「つつぼう」

先生「ああ、あそこね。まだいるのよ。先生もさっきさされちゃったのよ」

先生と④は保育室に入る。

先生は④にくすりをつける。

④「せんせい、ちがでちゃったの」とふしをつけて、おどけたようにいいながら④が保育室に入ってくる。

④「二回ころんだけど二回目は大丈夫だった」

先生は④にくすりをつける。

砂場にいた男児たちも、だんだん砂あそびをやめて二人三脚や三人四脚をはじめる。

④がぎんなんを集めているうちに、小さいぎんなんをみつめて、箸でつまんで見せに来る。

④「せんせい、ほら、ぎんなんの赤ちゃん」

先生「まあ、ほんと、じゃ、そのふくろの中に入れてときましよう」といつて、ぎんなんを集めてある袋を指さす。

先生「きつき、Hちゃんたち、三人でしようとしてたけど大丈夫かしら。できたかしら」とひとりごとをいつて庭を見まわす。

⑤と⑥が二人三脚をしていてころぶ。

⑤と⑥がいつしよに先生のところに来る。

⑤「せんせい、ころんだけど、なんともなかった」

⑦「わたしも、大丈夫だった」

先生は⑤と⑥がいつているのをきいて、わらいながら、

先生「ああ、そうね、ふたりいっしょにころんじやったのね」という。

三人四脚をやっていた子どもたちが先生に見せに来る。

先生「まあ、まあ、じゃうずねえ、ほんとだわ」といつて見る。

子どもたちは三人四脚で走っていく。

先生はビニールの袋に集めてあったぎんなんを、小さなバケツに入れて箸でつついてつぶす。

⑧がままごとを手にいっぱいだきかかえて保育室から出てくる。

⑨「せんせい、ちょっと、これ、あそこの鉄棒の下までもつててよ」

先生「どれ？それを？先生の手、ほら、これ、ぎんなんでよごれて、くさいけど」

⑩「あ、じゃ、いいや」

女児、四、五人、保育室に入って絵をかいいたり、保育ブロックであそびはじめる。

先生は、たたきつぶしたぎんなんを水で洗って、ひあたりのよい

ところに出してひろげる。

保育ブロックであそんでいた⑤が保育ブロックを持って、先生のところに来る。

⑤「せんせい、これ、とれない」

先生「とれないの？待ってね。今、先生、手を洗うから」といつて先生は手を洗って保育ブロックをはずす。

十一時五分

先生「そろ、そろ、お片づけしましうね」と当番の子どもにいう。

「やーまのくーみ、おかたづけ」と当番の子どもがふしをつけてあちこちにいつて歩く。

先生は子どもたちといっしょに砂場を片づける。

鉄棒の下でままごとをしていた⑨たちが荷物を自動車につんで走ってくる。

⑩が子どものうちから走ってくる。

⑧「子どものうち、てつだって、子どものうち、てつだって」とふしをつけて、ままごと道具を片づけている女児たちにいる。ままごと道具を片づけている子どもたちは、だまって、まま

と道具を片づけている。

㊦は走って、子どものうちにいく。

先生「㊦ちゃん」と先生は㊦を呼ぶが、㊦は気づかないで走っていく。

先生は砂場を片づけ終ってから、㊦がいつている子どものうちを見にいく。

先生は㊦たちが片づけているようすをみとどけて帰ってくる。

先生は庭を見わたす。

先生は遠くのすべり台のところになわとびのなわがおちているのを見つける。

先生「あの、すべり台のところにあるなわとびはどうしたの？」

㊦「あれ、川の組のなの」

先生「それじゃ、持って行ってあげましょう」

㊦は走って行って川の組にとどける。

先生は砂場でよこれたDの運動靴をふく。

先生は保育室に入ってくる。

片づけをしないで立っている子どもたちに、

先生「㊦ちゃんたちもお手伝いしてあげてね。ああ、㊦ちゃん、まだ、ままごとが、自動車にのこってるわ」

先生はこわれたままごとのお盆をセロテープで修理する。

先生「㊦ちゃん、これ、なおったわ、子どものうちの」

男児がふたり、庭で、まだ、二人三脚をしている。

I「せんせーい」という。

先生はIたちをみて、

先生「さあ、Iちゃんたちも、もう足をはなして、お片づけしよう」という。

先生「これも、きちんとしなければね」といって、かごに投げ入れ

てあったなわとびのなわを一本、一本、きちんと結ぶ。

先生の近くにいた数人の子どもが手伝う。

Iは足にむすんであった、たすきをほどこいて保育室に帰ってくる。

先生はIをみて、

先生「たすきをきちんとたたんで、しまっておきましょうね」という。

男児が立ってはなしているのをみて、

先生「男の方、ほら、そこに、まだ少しブロックがのこってるわ」とうながす。

子どものうちを片づけていた子どもたちが帰ってくる。

⑩「せんせい、子どものうち、きれいになった」

先生「そうお、どうもありがとう。あそこのままとも片づいたわね。ああ、積木もきれいになったー。じゃ、おかえりのしたくをしましょう」

子どもたちはバスケットなどをとりに廊下に出る。

子どもたちが帰りじたくをして保育室に入ってくる。

先生はオリンピックの予定表を持っている。

先生「これ、どこにはろうかしら、あしたからのだけど」と、ひとりごとをいいながら、保育室を見まわして、ままごとコーナーにいく。

昨日はつたメダル獲得表のとなりにオリンピックの予定表をセロテープではる。

先生「今日ではぬぐいを持っていつてちょうだいね。てぬぐいは外にありますよ」という。

子どもたちは手ぬぐいを持っていすにすわる。

先生は「みつばちマーヤの冒険」の本を持っていすにすわる。

先生「さ、じゃあ、きのうのつづきね」

B「にんげんがでてきたところまで」

先生「そうね、じゃ、そのあとね」

先生は本を読み出す。先生はどんどん読んでいく。
子どもたちに絵をみせない。解説も加えない。（五歳のため、四歳ではちがう）

子どもたちはしずかにききいつている。

先生は読み終わる。

先生「さ、じゃ、ここまでね。つづきはまた、月曜日ね。今度は、きつとたたかうんでしょうね、くまばちと」

先生は子どもたちをみまわして、

先生「てぬぐいをみんな持ちましたね。今日はこんなにお天気がよくなってよかったわね。今日からオリンピックが開かれるのね。でも今日は開会式だけで、競技はきつとあしたからね。いかれる方はいいけどきつといかれない人の方が多いんだから、みんなテレビをよく見てちょうだいね。せんせいも、いっしょうけんめい、テレビをみるわ。じゃ、お当番さん」という。

当番が男女、各一名ずつ出て来て、皆の前に立つ。

当番「さようなら」

先生も子どもたちも

「さようなら」という。

（お茶の水女子大学）